

平成28年度 学校評価の分析と次年度の課題

春日部市立春日部中学校

はじめに

学習指導要領のもと本校では、週29時間の時間割を編成し、学力の向上に力点を置き5年目となる。そして、心の教育を全教育活動の中で推進し、「確かな学力」と「豊かな心」の育成を両輪とする教育活動を展開する学校の教育力の向上が強く求められている。本校では、これらのことを踏まえ、家庭や地域等のニーズに応え、次年度への教育計画策定に役立てるため、学校評価を実施した。

1 学校評価の目的と方針

- (1) 全教職員による自己評価を実施し、自らの教育活動その他の学校運営について、達成状況を集約し、昨年度との比較をとおして組織的・継続的に改善を行う。
- (2) 保護者や生徒に協力を求め、アンケートによる学校評価を実施し、昨年度との比較により教育活動の改善・成果を検証し、来年度の学校経営に活用する。また、集約結果(数値)や次年度への課題や改善事項等について報告・公表する。
- (3) 学校評価の客観性・透明性を高めるために、学校関係者評価委員会を設置し、忌憚のない提言をいただきながら、学校経営の改善、教育力の向上、開かれた学校づくりを推進する。

2 学校評価の実施

- (1) 春日部中学校学校評価実施要綱

ア 評価の領域

- ① 学校組織運営
- ② 学習指導
- ③ 豊かな心と態度の育成
- ④ 健康、安全、体力
- ⑤ 保護者、地域との連携 (以上の5領域)

イ 組織

- ・学校評価委員会 委員は校内運営委員会委員と兼ね委員長は校長とする。
- ・学校関係者評価委員会
P T A会長、学校評議員、部活動育成会会長、中学校区青少年を育てる会会長、校長を委員とし委員長は互選とする(慣例として、P T A会長が委員長となっている。)

- (2) 春日部中学校関係者評価委員会規約

ア 会議 会議の開催は年3回とする。

- ### イ 組織 構成員は、P T A会長(1名) 学校評議員(5名) 部活動育成会会長(1名) 春日部中学校区青少年を育てる会会長(1名) 校長(1名)の9名とする。

- (3) 学校評価アンケートの作成と分析

- ・学校評価委員会において、学校評価アンケート調査の原案を作成する。
- ・アンケート調査の対象者を教員・保護者・生徒とし、三者の意識の特性を見る。
- ・アンケート調査の質問項目数は、教員20項目、保護者15項目、生徒11項目とし、結果分析を次年度の教育計画に生かす。(このうち8項目は、三者に共通の質問内容とする。)

- (4) 日程及び実施方法等

- ・学校評価委員会での原案作成及び職員会議での検討(9月~10月)
- ・学校評価アンケートの実施(11月 回収率:保護者81% 生徒90% 職員100%)
- ・学校評価委員会を中心にアンケート結果の集計及び分析(11月)
- ・第2回学校関係者評価委員会の実施及び検討(12月上旬)
- ・学校評価委員会及び職員会議等にて次年度の重点改善項目について検討(1月~)
- ・第3回学校関係者評価委員会で重点改善項目についての説明及び市教委報告(2月下旬)
- ・学校だより、HP等で重点改善項目について広報(3月上旬)

3 平成28年度の改善重点項目の評価

今年度は、「学習指導」及び「豊かな心と態度の育成」を重点課題として取り組んできた。「学習指導」としての「学力向上」の取り組みは、8年継続した取り組みとして実施した。今年度の成果を受けて、来年度はさらなる充実を図り継続的な指導を予定している。

(1) 学習指導

4月に実施された埼玉県学習状況調査を検証した結果、国語では学習指導要領の領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべてで全学年県平均を上回る。数学では、1学年が県平均を上回るが、2・3学年については、県平均を下回っている。この結果をさらに領域ごとに分析すると、1学年では「数量関係」、2学年では「資料の活用」、3学年では「関数」と、それぞれに課題があることがわかる。あわせて、観点別に分析をすると、「数学的な見方や考え方」に課題があることがわかる。また、「学力の伸び」に関しては、特に中位層・下位層の伸びが見られる。以上の結果から、基礎学力の定着・言語活動の充実に関する本校の取組について、一定の成果が現れているが、それらを活用する力

の育成に課題があると考えられる。

第1学年、第2学年の実力テスト（年2回）では、数学・理科に課題が見られるが、5教科とも平均に届かない回が多く、今後さらに授業の質の向上させること、補完的な学習を中心に放課後の補習や家庭での学習を強化し基礎学力を定着させ、活用する力を伸ばす生徒の育成を目指す。

継続して「学力向上を目指し、豊かな心を育む生徒の育成」をテーマに学力向上の研究を進め、家庭学習の質の向上や個に応じた段階的な指導などを新たな視点として取り入れる。これまで、言語活動に焦点をあてた授業力の向上、全教師が共通した指導を行うための研修会等の充実、家庭学習の定着や質の向上を図り学力向上に努めた結果、学習に対する意識付けや意欲は向上し、学習規律は定着してきている。今後も、学力向上に向けての取組を継続させ、発展させる必要がある。

本年度の重点課題	取組とその成果
①基礎学力向上のための学校全体の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けさせたい基礎・基本を徹底させるため、年間計画の中に各教科でスペコン、漢字、計算、歴史年表、理科基礎等のコンテストや確認テストを実施した。不合格者の再テストや補習を行うことで多くの生徒の学習効果をあげることができた。 ・始業時間への着席や挙手点検等の取組を通して、学習規律や授業規律の向上を目指したことで、生徒の意識の向上が見られ、自主的な行動がより一層とれるようになった。 ・県主催の「思考力チャレンジ事業」への参加を奨励した。 ・自己評価項目7「基礎学力の定着」について、項目回答「でよくできている」が昨年度より 11.1p アップの 53.7 % となった。
②全教科、授業力向上のための研修会・研究授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を中心に、学力向上・言語活動の充実に関する各教科の具体的な取組をまとめ、実践した。各教科部会にて指導方法の検討を行い、研究授業に役立てた。また、中1ギャップや教員の意識改革と学力向上に対する視点について研修した。(6/16.8/2.8/23.9/8.10/14 実施) ・道徳教育では、夏季休業中に外部講師を招聘し、研修会を実施した。(8/2 実施) ・指導担当教諭、教頭を中心に若手教員との勉強会を開催し、指導助言を行った。 ・各教科の研修として、「言語活動を充実させる工夫」という視点から、特に話を聞く態度の育成をめざし、授業の工夫 ・改善項目を明記した、授業研究会を全教科で実施し、授業改善に役立てた。 ・自己評価項目6「わかる授業の改善」の成果として、項目回答「よくできている」が 39.6 % と、昨年度より 0.7p アップした。
③家庭学習の充実に向けた具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活記録」と「家庭学習ノート」の2つの役割をもったノートを活用してから6年次。今年度全学級で2回学習状況調査を実施した。その結果として、全校約 90 % の生徒は週の半分以上自主的な家庭学習に取り組み(昨年度は約 80 %)、さらに習慣化しつつある。 ・『家庭学習の充実で学力UP～生活記録ノート活用術～』を生活記録ノート巻頭に掲載した。1学年においては学年集会において活用方法を指導する、小テストと連携して取り組ませる、他学年でも模範となる生徒の記入例の紹介や教室や校内に掲示する等、学習意欲の向上に繋げることができた。 ・宿題や家庭学習ノートの提出は、家庭・教科担任・学級担任が連携し、粘り強くしかも生徒一人一人に適切に対応し、「やりきる力」を育てた。 ・自己評価項目8「家庭学習の充実」の成果として、項目回答「よくできている」が昨年度 50.0 % から今年度 56.4 % と 6.4p アップした。

(2) 豊かな心と態度の育成

校内研修主任や道徳研究部会を中心に、夏季休業日を中心に研修会を開き、道徳授業の実践力を培うための研修を実施したり、9月には道徳や学活を含めた研究授業を行い、教師同士が互いの授業力向上になるよう研究協議を実施した。また、月1回の教育相談部会を開き、生徒の実態把握や現状分析、関係諸機関との連携や資料交換の情報発信として努めた。さらに、「いじめ」に対する早期発見として、全校生徒に学校生活のアンケート調査を行い、規律ある態度とともに「いじめ」を許さない意識を醸成する環境づくりに努めた。

本年度の重点課題	取組とその成果
①道徳教育の系統的な指導の工夫と研修会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの講師を招聘し、全クラス道徳授業の指導法工夫の展開に役立てた。 ・生徒の人権作文、全校朝会等での啓発活動を通して、学校全体で人権に関する意識を高められるよう努めた。また校内外の善行を「金山賞」「ひまわり賞」等、多種にわたる表彰を行うことで、互いに認め合う心を養った。 ・あいさつ標語や人権標語等の生徒作品や著名人や先人の「意欲の湧く言葉」を廊下・階段・校門前掲示板に掲示し、言語環境の整備に努めた。 ・自己評価項目9「豊かな心を育てよう努めている。」の成果として、項目回答「できている」「よくできている」が昨年度、今年度とも88.9%と高い評価を維持している。
②人権教育推進のための研修会の実施と学級指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターから「発達障害の理解」と題して研修を実施。発達障害の概略や具体的な支援例、発達検査WISCIVとその生かし方、また発達障害をもつ生徒の進路についてなど、支援実践例を具体的に研修した。 ・月に1度の教育相談部会にて、配慮を要する生徒への指導法工夫の資料を配布、各学年に周知させ学級活動の指導法の手立てとした。 ・「いじめ・いやがらせ」等の行為を断じて許さないという方針で各学年徹底して学年集会や学級指導を実施、その解消に努めた。その結果、正しい判断をし、行動する生徒が増えている。 ・自己評価項目12「互いの良さを認め合って学校生活を送っている。」の質問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」が昨年度92%、今年度は93%と高い評価を維持している。

4 分析結果と次年度への課題

(1) 三者とも評価の高かった項目について 【平均：教師 保護者 生徒】

- ・学校は部活動を奨励し、生徒の心身の発達に取り組んでいる。 [3.69 3.37 3.57]
- ・生徒の自主的な活動を積極的に取り入れた学校行事を行っている。 [3.65 3.31 3.70]
- ・ホームページなど最新の学校の情報をいち早く配信している。 [3.87 3.40]

(2) 三者にて評価に違いがあったり、評価が低かった項目について

- ・生徒は、家庭学習をしっかりと行っている。 [3.56 2.97 3.32]
- ・生徒は、いじめや意地悪な行為をしないで、認め合って学校生活を送っている。 [3.09 3.06 3.61]
- ・教員は、生徒の実態に基づき、「分かる授業」の改善に努めている。 [3.36 2.97 3.08]
- ・生徒は、あいさつや時間を守ることができる。 [3.15 3.17 3.52]
- ・学校は、清掃や掲示活動など環境美化に努めている。 [3.16 3.05 3.26]

(3) その他

どの学年も生徒が落ち着いて授業・学校行事に取り組み、生き生きと学校生活を送っている現状がある。しかし、今ある状態を継続・発展させ、さらにどのような生徒像を創っていくのかを考え取り組んでいく必要がある。また、教員の年齢も20代等の若い世代、経験年数の浅い教員が増え、40代前後の中堅世代が特に減ってきている。さらに、50代のベテラン教員は退職を迎え、教員の年齢構成比も大きく変化する。そのため、教師の指導力向上を目指した研修の機会を多く設け、特に若手教員の指導力向上を目指していくことが急務である。あわせて、小学校との連携も見据え、義務教育9年間を見通した指導・支援を行うことも必要である。

(4) 来年度に向けて検討を要する主な改善項目について

学習指導要領全面実施6年目となる。自己評価の分析を踏まえ、来年度に向け、引き続き学力向上の取り組みを進めていきながら、各教科の成果の検証を行っていかねばならない。さらに、生徒が学習に落ち着いて取り組むために、清掃・修繕等、校舎の環境整備に努める必要がある。したがって、来年度に向け、重点とする項目としては以下の2つである。

I 言語活動の充実等を目指した教師力の育成と自主的な学習力の向上。

II 清掃活動等を中心として、安心・安全な学校づくりを目指した学校・教室環境の整備。

これらを重点として教育活動を改善していく。

<p>① 学校組織 運営</p>	<p>○教職員事故の絶無 【課題】学校事故の防止と保護者・地域からの信頼性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・USB等保管管理の厳守、校外への持ち出し規定遵守、情報等管理の徹底。 ・危機管理に係る研修会の実施とマニュアルの改善。 ・施設設備等の安全点検とその改善。 ・開かれた学校づくりの推進と情報提供の継続。(ホームページ等の活用) <hr/> <p>○清掃等の環境美化と環境整備 【課題】清潔な生活環境と校内環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清美委員会の取組強化。 ・校内掲示物等の質的向上を目指す環境整備。 ・清掃の全校ルールでの指導の徹底。 ・校舎内補修作業の実施。(内壁等) <p style="text-align: right;">重点</p>
<p>② 学習指導</p>	<p>○学力の向上 【課題】教師力の向上と家庭学習の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実等を目指し、全教科授業研究会の実践。(各教科) ・授業力向上に向けた研修会開催。(年間2回、教材研究会含む。) ・基礎学力向上のための学校全体の取り組みの実施。 ・家庭学習定着のための生活記録ノート等の活用とその継続的な実践。 ・校内研修組織との連携 <p style="text-align: right;">重点</p>
<p>③ 豊かな心 と態度の 育成</p>	<p>○あいさつや時間を守る 【課題】規律ある学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイムの継続。教師の率先垂範。 ・下校時刻を守らせる指導の継続。 ・登下校、授業時のあいさつ、集会時の返事等、自分を表現できる生徒の育成。 <hr/> <p>○互いのよさを認め合う 【課題】思いやりの心、ボランティアの推進と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進のための研修会の実施と学級指導の工夫。 ・道徳教育の系統的な指導の工夫と研修会の開催。 ・いじめを許さない意識を醸成する環境づくりの推進。(生徒指導力含む。) ・本校独自のボランティア教育推進とその実践。(年2回程度、地域型として。)
<p>④ 健康・安 全・体力</p>	<p>○健康・体力の向上 【課題】総合体力の向上と自主・自立の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した授業実践と全校体力づくりの推進(スポーツテスト全国水準突破)。 ・部活動の充実と気づき・考え・判断できる生徒の育成。 ・健康安全教育の推進、毎週の石けん点検、2の付く日の爪チェックや8の付く日の歯磨きチェックなど。 <hr/> <p>○登下校、校舎内外でのケガや事故防止 【課題】危険回避能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域と連携した登下校指導等の取り組みの継続。 ・自転車の交通ルールの学習とその実践。 ・交通安全教室の実施と関係諸機関との連携。